

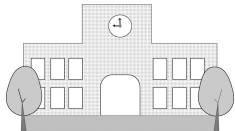
貸借対照表

貸借対照表とは、会計年度末の町の保有している資産（表の左側）と、その資産がどのような財源（表の右側）でまかなわれているのかを一目で分かるようにした財務書類です。

資産の部 （これまで積み上げてきた資産）

【固定資産】

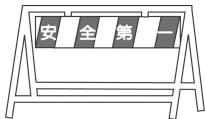
●事業用の資産



106
億円

土地・建物・立木など

●産業や生活の基盤となる資産



191
億円

道路・橋梁・水道など

【金融資産】

●資金



1.1
億円

●その他



31.9
億円

基金・貸付金など

資産の
合 計

330
億円

負債の部 （将来負担する額）

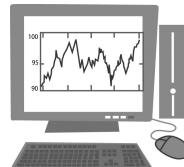
【地方債】



61
億円

資産の取得などにした借金

【その他】



10
億円

リースしている資産に対する
支払残高や職員に対する手当
などの支払予定額など

純資産の部 （本町の正味財産）

259
億円

資産から負債を引いた額

負債及び
純資産の
合 計

330
億円

矢印の金額は一致します。
▲はマイナスを表します。

財務分析

財務書類の分析には、さまざまな比率がありますが、主なものを公表いたします。

①純資産比率 78%

総資産に占める純資産の割合で、将来世代にも利用可能な資産を残したことになります。

②負債比率 28%

純資産に対する負債の割合を表し、この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

③基礎的財政収支 2.8億円

資金収支計算書の「経常的な経費に係る収支」と「資本的な経費に係る収支」の合計で、収支が均衡している場合は、持続可能な財政運営であるといえます。

④住民一人当たりの資産、負債、純経常費用

資産	989万円
負債	184万円
純経常費用	107万円

⑤社会資本形成の世代間比率 14%

現在整備されている社会資本（土地、建物、道路など）を、地方債などの負債によってどのくらい調達したかを示す比率です。この比率が低いほど将来世代への負担が残らないことを表し、財政状況が健全であるといえます。